

近藤信興氏 勲四等に叙せられる

環境地質部 環境地質課

元地質調査所地質部応用地質課長の近藤信興さんが昭和51年春の叙勲で勲四等旭日小綬章を授与され 5月12日に伝達式が行なわれました。心からお祝い申し上げます。

近藤さんは昭和2年3月 東京帝国大学理学部地質学科を卒業されるや直ちに大学院に進まれ 昭和8年まで岩石鉱床特に超塩基性岩石の研究に専念されました。そして同年に東京市水道局に奉職され 首都の人口増加とそれに伴う用水量確保のための地質学的調査に従事されました。これらの調査のうち特に昭和11年から昭和14年までに実施された府下小河内ダム地質調査は 近藤さんの若かりし頃の情熱を傾けた畢生の調査でした。完成後満々として湛えられた貯水池の水は都民の生活を護り 観光地として多くの人々に親しまれています。

昭和15年に商工技師となられ地質調査所に入所されました。しかし 当時は国策として所員の多くの方々が外地にて業務にたづさわりましたが 近藤さんも入所後間もなく興亜院の囑託として国外で 又昭和17年からは陸軍技師として比島軍政監部付として フィリピンにおいて鉱工関係の業務につかれました。

終戦後昭和22年に再び本所にもどられ 第一部第二課長として部下の指導にあたられました。当時終戦直後で世情不安のため 地質調査実施上不便なことが多かったのですが 西富士の水理調査や別府の地熱調査(わが国の地熱開発の先駆)等 精力的にとりくまれました。そしてこの間に日本鉱産誌編集委員としても活躍されわが国の鉱産資源の詳細な地方誌が続々と刊行されました。昭和27年に本所の応用地質課長とされましたが何と云っても研究対象が複雑多岐にわたり 又境界領域的要素を多く含む応用地質現象の解釈とその対策の樹立という最も困難な課題を抱えながら 課員の指導と育成に力を注がれたのです。その頃の課員はオールラウンド制といって 誰もが応用地質のあらゆる課題にかならず一度は体験を持ち 研究調査にたづさわるといった方法で鍛えられました。こうして地熱温泉開発 国土保全 防災及び利水といった多方面にわたる業績が多く

発表され 近藤さん自身もまた受託調査として 地方公共団体の開発 保全の要望に率先して応えられました。

昭和30~31年の間に資源調査会専門委員を命ぜられて 国土計画と調査の推進に参画されました。特に地熱及び温泉開発は近藤さんの畢生の事業で 在任中でもほとんど全国の調査地を踏破されましたが 昭和38年 本所を辞職されて 鉱研試験工業株式会社に移られても 同会社の温泉研究所長として5年間この方面の開発に献身されました。

現在は練馬の自宅で悠々自適の生活を送っておられますが 色々と開発関係の相談をもちこまれることが多く またご自慢の菊作りにもお忙しいとか。

重ねて今回の受賞にお祝いを申し上げますとともに 今後のご健康を祈ります。

現住所 東京都練馬区小竹町2-70
☎(03)955-0715
近藤 信興



近藤信興氏